

思い出の語り部の方々(島根県)

酒井 董美ただよし

時間の経過するのは過ぎ去ってみれば早いもので、筆者が口承文芸を収録し始めたのが、今を去ること62年前の昭和35年1月31日だった。当時、初任校の浜田市三隅町にある三隅中学校に勤務していたころのことになる。同町河内の鹿子谷集落にある山川テルさん(明治25年生)から「河童婿入り」「団子婿」など6話をうかがったのがスタートだった。炬燵には猫が座り、小学生の二人の兄弟も傍にいて「それは聴いた」など、にこにこしていたことを思い出す。惜しいことに写真撮る準備をしていなかったため、記念すべき写真のないのは残念なのだが。

ともかくそのようにしながら収録は開始したが、印象に残った語り手について挙げておきたい。次いで転勤したのが鹿足郡柿木村立柿木中学校(現・吉賀町)だった。ここでは毎週のように土曜日の午後、椈谷地区・茂土路集落の大田節蔵(明治38年生)、サダ(明治30年生)夫妻を訪ねたものである。お二人とも博覧強記で口承文芸だけではなく、風俗習慣についてもしつかりうかがい、村役場から頼まれて村の広報紙に連載した「柿木村の民俗」の資料に、しっかりと活用させていただいたことも懐かしい。

次に仁多郡奥出雲町の鳥上中学校(当時横田町立・今は横田中学校に合併した)にいた時分は、大呂集落の安部イトさん(明治27年生・「産神問答」など)や竹崎集落の田和朝子さん(明治40年生・「若水汲みなど」)からよく民話などをうかがったが、校区外でも大馬木の千原亭四郎さん(明治21年生・「絵姿女房」など)からもうかがった。また旧・仁多町下阿井の井上掬佳さん(明治19年生)からも「金の犬こ」というスケールの大きい昔話をうかがった。

隠岐島の海士町へ渡ってからは、海士中学校(昭和48年度1年間)や隠岐島前高校(昭和49年度から4年間)に勤務したが、高校で郷土部を作り採集活動にいそしんだ。海士町では崎集落の木野谷タマさん(明治19年生・「禅問答」など)、御波集落の濱谷包房さん(昭和3年生・「狐の変化玉」など)、保々見集落の徳山千代さん(明治37年生・「ネズミ浄土」など)、この他多くの方々から収録させていただいたものである。これらの録音資料は、今や筆者の宝となっている。



左から奥出雲町下阿井・井上掬佳さん(明治19年生)竹崎・田和朝子さん(明治40年生)大呂・安部イトさん(明治27年生)吉賀町椈谷・大田サダさん(明治30年生)、大田節蔵さん(明治28年生)